

沼津市学校教育におけるICT活用方針

～ N-GIGA ～

令和3年2月

沼津市教育委員会

沼津市学校教育におけるICT活用方針（N-GIGA）

1 策定目的

国のGIGAスクール構想に基づき本市が導入した、「1人1台PC端末」をはじめとする小中学校のICT環境を、学校教育の「あらゆる場面」で活用することで、全ての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学び、協働的な学び及び学びの継続を実現し、学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力、問題発見・解決能力等を育成することにより、「Society5.0時代」や先行き不透明な時代を生きる中で様々な課題に柔軟に対応できる人づくりを目指す。

2 方針の対象期間

児童生徒1人1台PC端末の導入を開始する令和2年度から、同端末の更新が予定される令和6年度までとする。

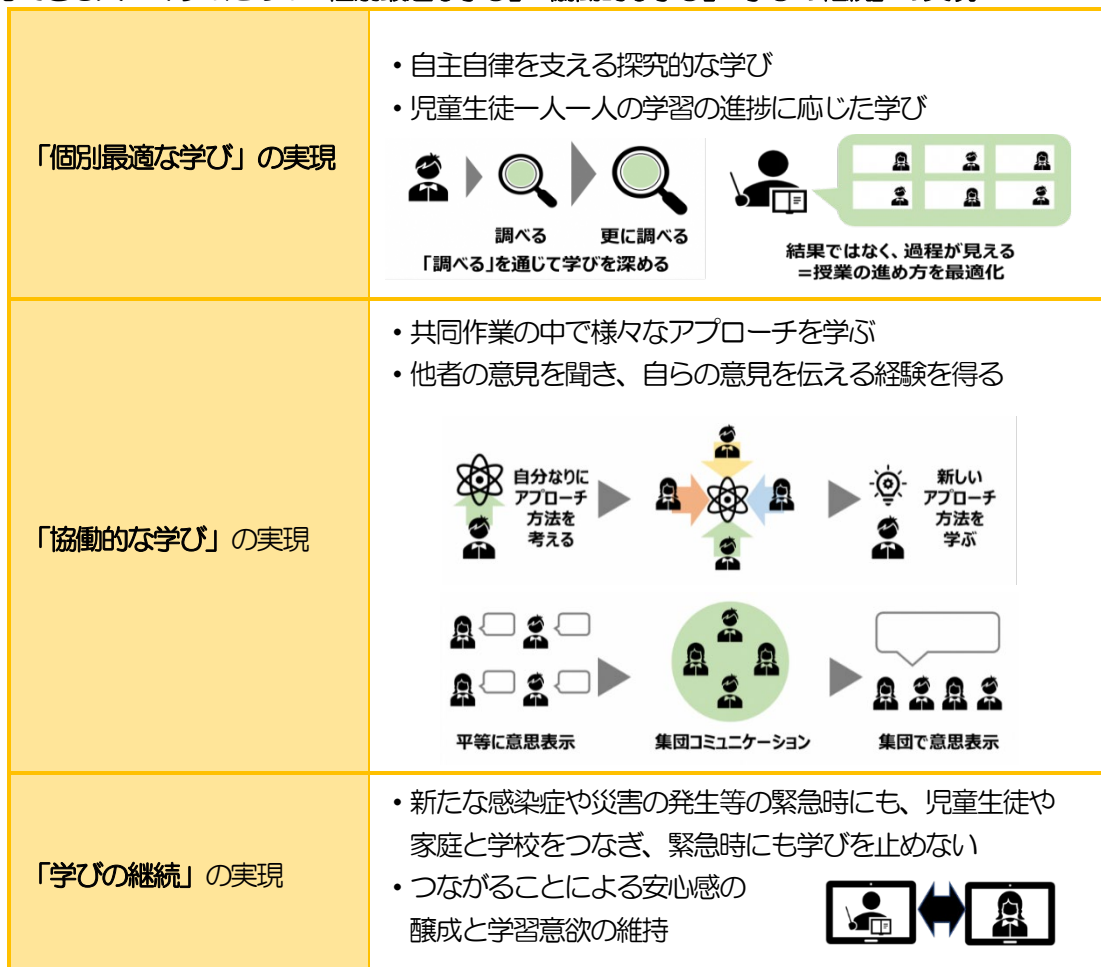
3 活用するICT機器・環境

- 児童生徒用PC端末（Chromebook：マルチタッチ対応コンパチブル型）：1人1台
- 教職員の授業用PC端末（児童生徒用端末と同一品）：1人1台
- 大型提示装置及びワイヤレスディスプレイアダプタ（Chromecast）：小中学校の通常学級普通教室に1台
- 学校ごとに高速インターネット環境を整備、直接クラウド型グループウェアサービス（G Suite for Education）に接続。
- 児童生徒・教職員一人一人にアカウントを配布。



4-1 本市の目指す「ICTを活用した学び」

- 全ての児童生徒の可能性を引き出し、Society5.0時代において様々な社会の変化にも前向きに対応できる人づくりのための「個別最適な学び」「協働的な学び」「学びの継続」の実現

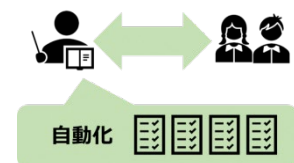


- 本市の様々な地域資源やテーマ（地球環境、SDGs、沼津の宝、文化財、地域人材、沼津市の事業等）を「ソース」に、学校教育のあらゆる場面（授業、フィールドワーク、休み時間、特別活動等）でICTを「ツール」として活用し、その成果をとりまとめ、共有したり、外部に発表したりすることによる「質の高い授業・特別活動等」の実現と児童生徒の「自己肯定感」の育成

- ICTの活用による、地域の人材、他の学校、不登校・長期欠席児童生徒等と「つながる学び」「地域総がかりの教育」の実現

- ICT活用の前提としての「情報モラル・リテラシー教育」の充実

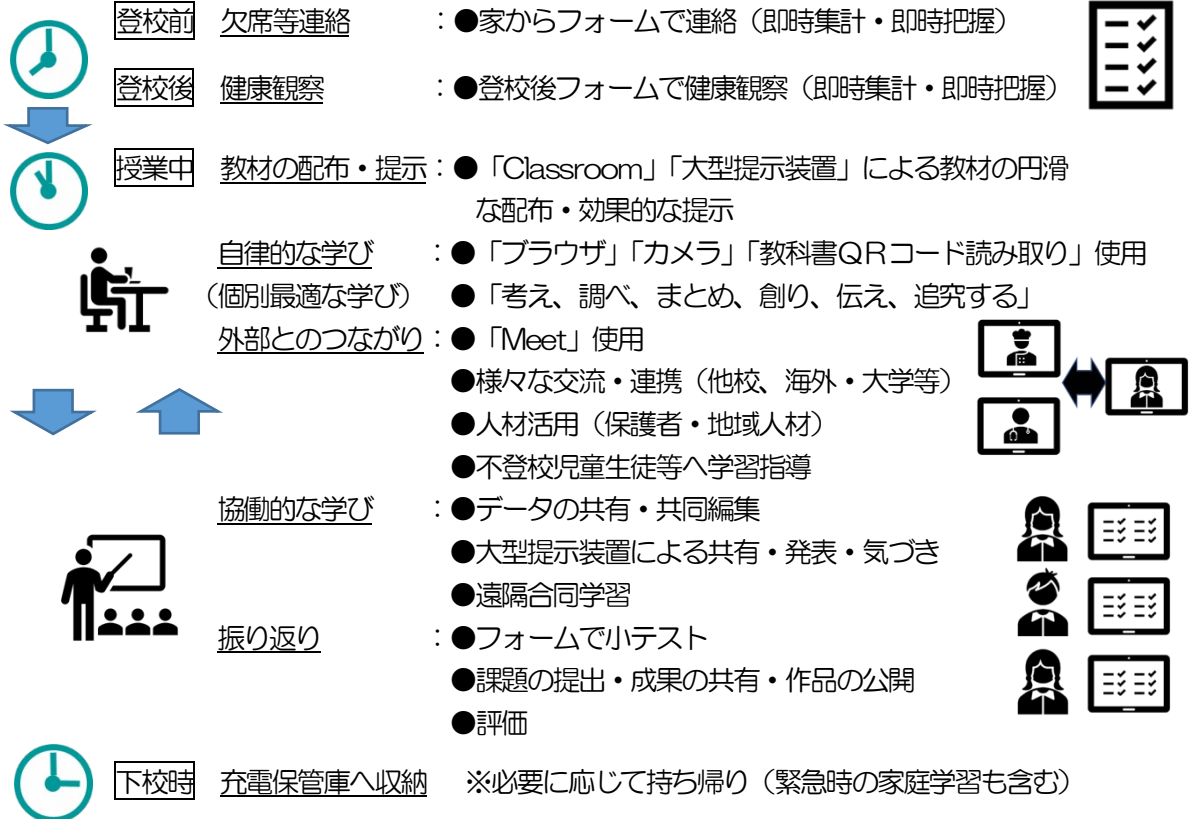
- ICTを活用した教育の実践による「教職員の負担軽減」（課題の作成・回収、小テストの実施・自動採点等）を通じた教職員の「児童生徒に向き合う時間の確保」



4-2 具体的な「学び」の姿「ICTのある毎日」

<一日の流れ> (例)

～G Suite for Education の活用～



※小学校・中学校における「1日のモデルケース」は4・5ページに記載

<授業イメージ> (例)

- 問題発見** 「課題をつかみ、自ら問いを持つ」
- ・課題や資料を提示する【大型提示装置・フォーム等】
 - ・課題や資料を配布する【Classroom】
- 個人追究** 「自ら追究し、発見した問題に対する自分の考えをつくる」
- ・課題に対する自分の考えをまとめる【G Suite】
 - ・資料へ考えを書き込む【G Suite】
 - ・必要に応じてWebの資料や撮影した写真等を取り込む【検索・カメラ】
- 練り合い** 「共同編集や情報共有・交流などにより、学びを広げ深める」
- ・考えを共有し交流し合う【端末を見せ合う・G Suite】
 - ・共同編集による練り合いや作品の協働制作等、協働的な学びを進める【G Suite】
 - ・友達の考えと比較したり再考したりしまとめる【Jamboard・スライド等】
- 理解定着・振り返り** 「学習内容の理解定着と、学びに向かう自分の姿を振り返る」
- ・発表し合い、内容の確認を行う【大型提示装置・スライド等】
 - ・最終的な自分の考えやまとめ、成果物などを提出する【Classroom】
 - ・小テストや自己評価、振り返りを行う【フォーム・Classroom】

※小学校・中学校における「1日のモデルケース」は4・5ページに記載

☆1日のモデルケース（例えば小学4年生）

登校前

「熱が出ました」

- 家から保護者がスマートフォン・PC等からフォームで学校に欠席を連絡する。

登校後

・朝の健康観察

- 端末を充電保管庫から取り出し、教室の自分の席でPC端末で自分のアカウントにログインする。フォームで自ら朝の体温・健康状態を報告する。



・朝会

- 不登校・長期欠席等の児童も「Meet」で一緒に参加した朝会を実施する。



・国語の授業

- 文章を読んで「要点」と考えた箇所を全員で共同編集ソフト上に書き出し、他の児童の答えと比較しながら多様な考えに触れながら「自ら気づく」。



・算数の授業

- 教科書の「QRコード」から教科書会社のWebサイトに接続し、「平行な直線の書き方」等を動画で学習し、理解を深める。
- フォームで小テストを行い、終了後直ちに行われる自動採点の結果により、必要に応じて再テストを受け、内容を確実に理解する。



・体育の授業

- 体育館で「跳び箱」の跳び方を友達同士で動画撮影し、跳び方の改善点の指摘を担当から受けたり、自ら気づいたりすることで、跳び方を修正する。



・休み時間

- PC端末で、授業中に興味を持った内容を自ら検索し、情報を収集したり自律的に知識を深めたりする。



・総合的な学習の時間

- ～「〇〇沼の環境保護」をテーマにした総合的な学習の時間において～
- 国内外の環境保護の動きについてインターネットで検索する。
 - 校外へフィールドワークに行き、現地で見つけた動植物をカメラ撮影する。学校に帰ってからインターネット等でその種類等を検索する。
 - 共同編集ソフト上で、グループごとに動植物の撮影ポイント、名称、特徴等を記録する。過去の記録等と比較し、増減の状況をグラフ化する。
 - グループごとに大型提示装置を使って「他にない特徴」「保護の必要性・方法」等、専門家の協力を得ながら問題解決を進めたり、遠隔学習を取り入れ対話したりしながら、「考え、まとめた結果」を発表する。



下校前

・帰りの会

- 端末を充電保管庫へ収納
※必要に応じて持ち帰り（緊急時の家庭学習も含む）

☆1日のモデルケース（例えば中学2年生）

登校前

「通院のため、1時間目の途中に登校します。」

- 家から保護者がスマートフォン・PC 端末 等からフォームで学校に「遅刻」を連絡する。（即時集計・即時把握）

登校後

・朝の健康観察

- 端末を充電保管庫から取り出し、教室の自分の席で PC 端末で自分のアカウントでログインする。フォームで自ら朝の体温・健康状態を報告する。



・朝会

- 不登校・長期欠席等の生徒も「Meet」で一緒に参加した朝会を実施する。



・社会の授業

- インターネットで得たある地域の異なる情報（地形の特徴、交通網、人口、文化や歴史等）を比較、関連付けて読み取ったり、異なる地域の共通する情報を比較したりして、関連付けて根拠として示しながらレポートを作成する。



・理科の授業

- 金属を電解質水溶液に入れる実験を行い、金属が水溶液に溶けたり、水溶液中の金属イオンが金属として出てきたりする様子を動画や写真で記録する。それらをグループで確認しながら、これまでの化学変化に関する学習の過程を踏まえて、イオンのモデルと関連付けて考えたり、得られた結果を表にまとめたりして分析する。



・音楽の授業

- クラス全員で同時に楽曲を鑑賞した後、生徒一人一人が必要に応じて PC 端末により音楽を再生したり停止させたり、繰り返したりすることで、着目した音楽の特徴を他者と共有し、学習を深める。



・昼休み

- 充実した人生や働くことの楽しさと価値、学ぶことと職業など、現在の自分と将来とをつなぐものに興味を持ったことから、多様な大人の体験談や働くことの意義などを収集し、自分なりの考えをまとめるために ICT を活用する。



・道徳の授業

- 導入における動機付けを図る場面において、ねらいの根底にある道徳的価値に関わるニュースやドキュメンタリーなどの動画資料を視聴したり、拡大表示された新聞記事について感じたことを共有したりする。



・英語の授業

- 生徒が発表する様子を録音・録画した後、生徒自身がその様子を再生して確認し、自身の発話を客観的に振り返り、次の学習における見通しの確認や目標の設定をする。
- 正しい発音を身に付けるために、音声入力機能を用いて自身の発音が正しいスペルに変換されるかを繰り返し試す。



下校前

・帰りの会

- 定期テスト前、家庭学習計画に基づいた学習の進捗状況をデータとして記録したり、修正したりする。
- 係活動や委員会活動において、学級全体への「お知らせ」を、Classroom を使い配信する。

<学習場面に応じた ICT 活用の例>

調査活動	協働での意見整理	大型提示装置に映し出す
<ul style="list-style-type: none"> インターネットやデジタル教材を用いて、必要な情報を収集する。 観察や実験の記録、器械運動の試技、楽器の演奏、校外学習における取材メモ等を、カメラを使って撮影する。 取材時、質問や回答をドキュメントの音声入力機能で文字起こしし、インタビューに専念する。 NHK for School の番組や動画クリップを視聴する。 	<ul style="list-style-type: none"> 共有機能や共同編集機能により、複数の情報や意見・考えを共有し、学習課題に対する意見整理を円滑に進めるとともに、話し合いを通じて思考を深める。 新聞づくりやレポート作成では、作業や内容をグループで分業し、同時編集機能により、協働制作を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画・アニメーション・音声等を含む教材や資料を提示することにより、興味・関心の喚起につなげるとともに、学習活動を焦点化し、学習課題への理解を深める。 手元の動きなどを大きく映し出す。(演示や実物) 児童生徒が、自分の考え方や制作したものを大きく映し出して発表することで、互いの考えを視覚的に共有し、議論を深める。
学校の壁を越えた学習	プログラミング教育	授業以外の活用
<ul style="list-style-type: none"> 災害や感染症などによる臨時休業時や、不登校児童生徒対応として、Meet を用いたオンライン授業やサテライト授業を行う。 Meet や Zoom などを使って、他校や海外の学校、外部の専門家などをつなぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の指導をする中で、教科等での学びをより確実なものにするために行う。 Scratch や WeDo2.0、MESH などを利用し、プログラミング的思考を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席や遅刻等の連絡 朝の健康観察 (セルフチェック) たよりの配信 (ペーパーレス化) タイピング練習 オンラインOO (参観、保護者会、教育相談、進路相談など) 部活動の連絡 放送による朝会や一斉連絡

※授業形態、学習場面ごとの指導スキル、活用ツール (例) は、P9「5 授業形態・学習場面に応じた指導スキルと活用ツール」を参照する。

※地域資源等を活用した学習をモデルにした活用フロー (参考) は次ページ参照する。

4-3 情報活用能力の段階的育成

小学校の低・中・高学年、中学校のそれぞれにおいて取得・育成すべき情報活用能力の内容を以下のとおり示し、段階的に情報活用能力の育成を図る。

小学校低学年→「撮る・選ぶ・話す」

目的を持って写真を撮影したり、撮影した写真の中から伝えたい内容の物を選択し発表したりする 等

問題発見 課題意識	情報選択 問題解決	情報発信 言語能力
-----------	-----------	-----------

小学校中学年→「調べる・比べる・整理する」

調べたい内容をキーボードで入力して検索したり、集めた情報を比較したり、自分なりの言葉で整理し記録したりする 等

課題意識 関連付け	情報の比較 情報の選択	問題解決 言語能力
-----------	-------------	-----------

小学校高学年→「分類する・組み合わせる・伝える」

複数の情報を項目ごとに分別・関連付け・整理することで分かったことを伝えたり聞き手から納得を引き出したりする 等

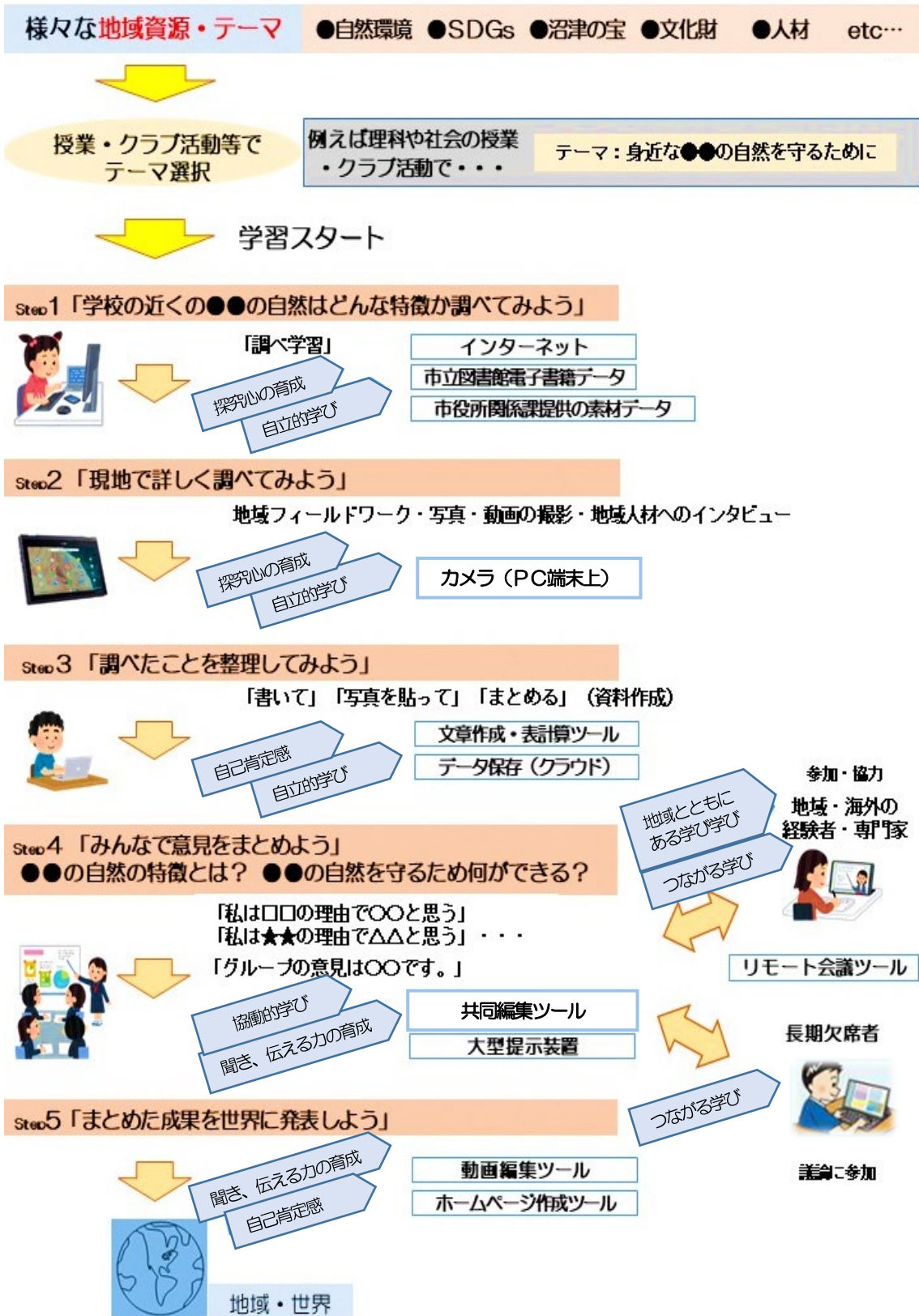
課題意識 多面的視野	情報の分類 情報の関連付け	表現の工夫 言語能力
------------	---------------	------------

中学校→「調べる・吟味分析する・創り出す」

多様な手段で情報を収集したり、目的や情報の種類に応じて整理の方法を工夫したりし、新しい考えや価値を創出したり・提案したりする

情報収集の手段 情報の種類	問題解決 合意形成	情報発信 評価・改善
---------------	-----------	------------

(参考) 総合的な学習の時間・クラブ活動等における活用フロー



4-4 情報モラル・リテラシー教育の充実

1人1台端末の活用が進むにつれて、学校内外とのやりとりが一層進み、その中で、本人又は保護者の同意がない状態で氏名や写真等の個人情報や外部に提供されたり、著作権を適切に配慮されずにコンテンツが使用されたりすることが懸念される。

さらに、手軽に情報発信ができること等により、第三者を傷つける発言を掲載したり、それにより自らが傷ついたりすることも懸念される。

ICTの活用は、児童生徒・教職員が情報モラル・リテラシーに対する十分な知識を持つことが前提であるため、あらゆる活用の場面において、こうした配慮の必要性についての指導の徹底を図っていくことが不可欠である。

また、ICTを活用した授業や学活等において、児童生徒が経験する様々な失敗も指導のチャンスと捉え、学校外、さらには将来の社会生活において同じ失敗を繰り返さないよう、適切な指導を実施する。

教職員のICT活用においては、セキュリティポリシーに沿った取組を徹底し、情報漏えいや個人情報の扱いに十分留意することとする。

4-5 地域資源・人材に対するICTを活用した「理解の醸成」「地域総がかりの教育」の実践

本市においては、豊かで特色ある地域資源が各校区に存在している。そうした地域資源や人材について、児童生徒が授業等の様々な学校生活において、積極的にICTを活用した情報収集や理解の深め合い、市内外への情報発信をすることで、郷土に対する愛着の醸成を図る。

また、地域や行政が提供する様々な素材・人材を活用した「地域総がかりの教育」を、ICTを活用する場面においても実践する。

4-6 緊急時の「学びを止めない」ための取組の確保

新しい感染症等による学校の臨時休業等においても「学びを止めない」ため、いつでも自宅等で学習できる「オンライン」による課題の準備等に取り組む。また、緊急時、スムーズに学びを切り換えるためにも、平時におけるPC端末の家庭への持ち帰りを試行するなど準備を進める。

4-7 特別な配慮を必要とする児童生徒の学校教育へのICTの活用

学習障害や視覚障害のある児童生徒にとって、ICTの活用は、これまで以上に高い学習の効果を期待することができる。

また、感染症等による学校の臨時休業等においては、基礎疾患等を持つ特別支援学級の児童生徒が、リモートで通常学級や他校の特別支援学級等とつながることや、通級指導教室に通う児童生徒が在籍する学校から通級先の学校とつながることで、感染予防等に配慮した教育活動が可能となる。

こうした特別な配慮を必要とする児童生徒に対する学校教育においても、ICTの積極的な活用を図る。

5 授業形態・学習場面に応じた指導スキルと活用ツール

授業形態や学習場面に応じ、求められる指導スキルを以下のとおり示すとともに、活用が想定されるツール（例）を示す。

授業形態	学習場面	指導スキル	活用ツール（例）
一斉学習	教材の提示	画像や音声、動画などを活用し、大きく提示しながら説明している。また、適切な教材や資料を配布している	大型提示装置・Chromecast Classroom
	教材配布		
個別学習	個に応じた学習	ドリルやデジタル教材、カメラ等を用いて一人一人の特性や習熟の程度などに合わせ個に応じた学習支援をしている	AIドリル カメラ機能
	調査活動	Web 検索やデジタル教材を活用して必要な情報を収集したり、写真や動画を撮影して記録したりする指導をしている	Web 検索・カメラ機能 音声入力機能・Meet・Gmail
	思考を深める学習	デジタル教材を活用して思考を深め、自分なりに理解する機会を確保している	QRコード 各種コンテンツ
	表現・制作	文字や写真、動画などを用い、資料や作品を制作できるようにしている	ドキュメント・スライド サイト・Adobe Spark・ YouTube 等
	家庭学習	理解を深める教材の準備をし、家庭での調査活動をもとに次時に活用するため、端末やアプリを活用させている	Classroom AIドリル
協働学習	発表や話し合い	調べたことやまとめを拡大表示し、グループや学級全体で発表や話し合いを進めている	大型提示装置・Chromecast スライド・サイト・Adobe Spark
	協働での意見整理	端末やアプリの機能を用い、意見を交流し合う中で、複数の意見や考えを議論し整理できるようにしている	Jamboard・スライド スプレッドシート・Classroom
	協働制作	グループでの分担や協働による作品の制作を行う機会を確保している	スライド・ドキュメント Jamboard
	学校の壁を越えた学習	専門家やゲストティーチャー、遠隔地や海外の学校等とオンラインでつなげ、交流学习の可能性を広げている	大型提示装置・Chromecast Meet・Zoom

※ 学習場面は、「教育の情報化に関する手引-追補版-（令和2年6月 文部科学省）」の分類

※ ICTの活用シーンと使用アプリ・ツール等の詳細は、巻末を参照。

6 「活用のスケジュール」と「行動目標」

※本スケジュールは、実際の進捗状況により必要に応じて見直しを行う。

1年目 (R2)	<ul style="list-style-type: none"> ・活用方針（本書）の策定・セキュリティポリシーの改訂 ・ハード面の整備（1人1台端末・ネットワーク環境・大型提示装置） ・アカウント発行 ・教職員研修（GIGA 概要の理解、端末・G Suite・クラウド等の操作⇒底上げ研修）
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教職員がG Suite for Education の使い方について研修を受け、「何かができるか」を理解している。 ・全ての学校で健康チェックを「フォーム」を用いて管理できる。
2年目 (R3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト面（AIドリル・デジタル教科書）の研究 ・モデル校におけるデジタル教科書の使用（文部科学省「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」による） ・教職員研修（授業での活用⇒スキルやリテラシーに応じた階層別研修） ・授業実践（日常的活用） ・端末持ち帰りの試行 ・児童生徒のICT活用による効果（どう変わったか等）の測定方法・基準の検討 ・アンケートの実施
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教職員が、児童生徒がICTを日常的に活用する授業づくりをしている。 ・全ての学校において、情報モラルを指導・育成する取組が行われている。 ・全ての学校において、プログラミング的思考の育成にICTを活用している。
3・4年目 (R4・5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト面の整備検討（AIドリルの全校導入・デジタル教科書の研究） ・教職員研修（授業での効果的な活用） ・授業実践（効果的な活用・応用的な活用） ・端末持ち帰り（試行・一部実施） ・ハード面の更新に関する検討（端末更新 or BYOD） ・児童生徒のICT活用による効果（どう変わったか等）の測定方法・基準の試行
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての学校において、学習内容の定着のため、個別学習・繰り返し学習にICTを活用している。 ・全ての学校において、ICTによりデータを収集・分析し、学校それぞれの課題を踏まえた授業内容の修正に取り組んでいる。
5年目 (R6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト面の整備（AIドリルによるログ蓄積・デジタル教科書の導入の検討） ・教職員研修（授業での効果的な活用・OJT） ・授業実践（効果的な活用・応用的な活用） ・端末持ち帰り（一部又は全面） ・児童生徒のICT活用による効果（どう変わったか等）の測定方法・基準による評価
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての学校において、学校での学習と家庭での学習がICTで連携している。 ・全ての学校において、授業内容のアーカイブ化が進み、相互活用が図られている。 ・全ての学校において、児童生徒のICT活用による効果が現れている。

7 成果指標

ICT活用教育を確実に推進するため、年度ごとに学校・児童生徒を対象に以下のアンケート調査を行う。

(成果目標)

「教職員は児童生徒がICTを日常的に活用するような授業づくりをしている」と考える児童生徒の割合」(令和6年度 90%以上)

8 活用推進に向けた支援体制の整備

ICTの活用を推進する上で、各学校での取組の成果を参照し、自らの学校でも実践できるよう、取組状況の共有を図ることが必要である。

そのため、個々の取組状況を定期的に共有ファイルに掲載し、どの学校でも閲覧できるよう、定期的な掲載を各学校に求める仕組みづくりを図る。

さらに全ての教職員・学校において、高いレベルでのICT活用が図られ、児童生徒の学力の保証につながるよう、教職員に対する研修の充実を図るとともに、組織的な支援体制を確保していく。

加えて、ICTに高い見識を有する地域人材、企業、教育機関等との連携により、ICTを用いた授業内容の充実を図る。

9 教職員のICT活用指導力向上に向けた研修用資料(令和3年1月30日現在)

- (1) Google for Educationに関するe-learning
 - ① はじめてのGoogle for Education(全教職員対象の悉皆プログラム)
https://lms.gacco.org/courses/course-v1:gacco+pt060+2020_09/about
 - ② Google for Education ICT活用に関するリンク集
 (G SuiteやClassroomの使い方や、Google for Educationの活用事例などの紹介動画)
http://services.google.com/fh/files/misc/gfe_ict_link.pdf
- (2) 各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画
 (「主体的・対話的で深い学び」の観点から授業改善を行うに当たり参考となる解説動画)
https://www.mext.go.jp/content/20201013-mxt_jogai
- (3) 各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料
 (「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行うに当たり参考となる参考資料)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00915.html
- (4) StuDX Style(スタディーエックス スタイル)
 (1人1台端末の活用方法に関する優良事例や本格始動に向けた対応事例を紹介)【文部科学省特設サイト】
<https://oetc.jp/ict/studxstyle/>
- (5) 1人1台環境導入直後にもすぐ使えるG Suite for Education 授業・校務素材集
 (小学校教職員向け素材集であるが、校務素材は学校種別問わず活用可能)
<https://sites.google.com/view/1-1-g-suite-for-education>
- (6) その他参考資料
 - ① 教育の情報化に関する手引
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
 - ② とっとりICT活用ハンドブック(鳥取県教育委員会)
https://cmsweb2.torikyo.ed.jp/toriedu-center/?action=common_download_main&upload_id=5993

(資料) ICTの活用シーンと使用アプリ・ツール等 (R3.2月時点の例)

なにを	いつ	どこで	だれが	どのように ※使用アプリ・ サービス・ コンテンツ等	方法・備考・その他
健康セルフチェック	毎朝始業前・朝の会	教室等・各家庭	児童生徒	フォーム	始業時まで、各自回答。毎朝端末を開きログインする習慣も付く
出欠連絡	朝()時まで	各家庭	保護者	フォーム	専用フォームで欠席・遅刻・早退等の連絡をする(保護者スマホ等から)
プールカード・持久走健康観察カード	登校前	各家庭	児童生徒・保護者	フォーム・スプレッドシート	専用フォームやスプレッドシートで体温や食事、排便、体調等の連絡をする(保護者スマホ等から)
予定連絡(連絡帳の廃止)	前日	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	スプレッドシート	予定帳に翌日の予定を書かず、教職員の予定帳を共有
日報・3行日記など	下校前 or 帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	フォーム・ドキュメント・Classroom	
音読カード	帰宅後	各家庭	児童生徒・保護者	フォーム・スプレッドシート	
教科書等の資料(QRコード利用)	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	QRコードリーダー・ブラウザ	
デジタル教科書・デジタル教材(各教科)	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	デジタル教科書	
資料提示(実物投影)	随時	教室等	児童生徒・教職員	カメラ	
資料提示(オンラインコンテンツ等)	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	ブラウザ・NHK for School・YouTube等の各種コンテンツ	
協働学習・共同編集等(各教科・総合等)	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	Jamboard・ドキュメント・スプレッドシート・スライド	意見・回答の即時共有を通じた効果的な協働学習
調べ学習	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	ブラウザ・各種オンラインコンテンツ	各自の視点で情報を収集して整理、分析し、即時に周りと共有して議論
インタビュー	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	ドキュメント(音声入力)	インタビューに専念し、後で修正する
英語のスピーキングチェック	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	ドキュメント(音声入力)	英語の発音が正しいか確認する
リスニングテスト	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	フォーム・Classroom	英語のリスニングテストを実施できる
OCR	授業・帰宅後	教室等・各家庭	教職員	ドキュメント(手書きワークシートをOCRでテキスト化)	画像をドキュメントで開くと手書き文字がテキストデータに変換される
写真撮影・ビデオ撮影	随時	教室等・体育館・各家庭	児童生徒・教職員	カメラ(静止画・動画)	
写真編集	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員		
動画編集	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員		
意見の共有(一覧表示)・机間支援(巡視)	授業	教室等	児童生徒・教職員	スライド等	児童生徒:スライドの共同編集、教職員:スライドを一覧表示
発表	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	スライド・	

なにを	いつ	どこで	だれが	どのように ※使用アプリ・ サービス・ コンテンツ等	方法・備考・その他
				サイト・ Spark・ YouTube等	
レポート作成 (各教科・総合等)	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	ドキュメント・ スプレッドシート・ スライド・ サイト・ Spark	探索機能、音声入力などの有効活用
プレゼン (各教科・総合等)	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	スライド・ Spark・ サイト	
プログラミング (各教科)	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒	Scratch・ MESH・ Hour of Code等	
情報モラル	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員・ 保護者	広教 Net モラル (web版)	ID:**** PW:****
学習支援(LMS (Learning Management System:学習管理 システム)、課題 の配信回収)	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	Classroom・ ドライブ	
質問・個別支援	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	Meet・ Classroom・ Gmail	
音声入力	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	ドキュメント・ ブラウザ	
地図の活用 (社会科・生活科等)	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	マップ・ マイマップ	
副読本「ぬまづ」 (社会科)	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	PDFリーダー	改定に合わせて電子化を検討
低学年対応 (ふりがな)	授業・帰宅後	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	拡張機能 Chrome ウェブス トア Furigana Extension	市内で一括してセットアップ
クラスの諸連絡	授業・帰宅後・随時	教室等・各家庭	児童生徒・教職員	Gmail・ Classroom	
各種たより (学校便り・学年便 り・保健便り等)	随時	学校→ 各家庭(児童生徒)	教職員	PDFリーダー・ Gmail・ Classroom・ ドライブ	デジタル化、ペーパーレス化(メ ール配信 or ドライブで共有リ ンクを送付など) 紙媒体希望 者の把握と配布も必要
お知らせ (献立予定表・ 下校時刻等)	随時	学校→ 各家庭(児童生徒)	教職員	PDFリーダー・ Gmail・ Classroom・ ドライブ	デジタル化、ペーパーレス化(メ ール配信 or ドライブで共有リ ンクを送付など) 紙媒体希望 者の把握と配布も必要
意識調査・ レディネス調査等	随時・授業時等	教室等・各家庭	児童生徒	フォーム・ Classroom	
小テスト	随時	教室等・各家庭	児童生徒	フォーム・ Classroom	
CBT (Computer Based Testing:コ ンピュータを利用した 試験)に慣れる学 習	随時	教室等	児童生徒	フォーム・ ドキュメント・ Classroom・ AIドリルのテスト等	方法について要検討
ドリル学習 (AIドリル)	授業・家庭学習・臨 時休業時等	学校・各家庭	児童生徒・授業者・ 不登校児童生徒	導入方法・費用負担 の在り方について検 討	AIドリルの導入(紙より安価) 導入する単位・方法等について 検討

なにを	いつ	どこで	だれが	どのように ※使用アプリ・ サービス・ コンテンツ等	方法・備考・その他
遠隔学習・ 遠隔協働学習・ 学校間交流	授業	教室等	児童生徒・他校・グ ストティーチャー 等	Meet・ Classroom・ Gmail	多様な考えに触れる機会や発表 の場として他校とつなぐ。小規 模校で特に有効。海外や専門家 と連携した授業の実施
交流会（特活）	授業・放課後	教室等	児童生徒・中学校区 やブロック内の学 校	Meet・ Gmail・ スライド	児童会生徒会の交流・児童生徒 レベルでの小中連携・学校紹介 など
学校保健委員会	授業	教室等・学校医	高学年児童	Meet・ Gmail・ スライド	学校医と学校をつなぐ
オンライン社会 科見学	授業（社会科）	教室等	児童生徒・ 受入施設等	ブラウザ・ Meet等	
オンライン自然 観察	授業（理科）	教室等・各家庭	児童生徒・ 現地の担当教職員 等	ブラウザ・ Earth・ Map	
外国籍の児童生 徒対応	随時	教室等・各家庭	児童生徒・ 教職員・SSS・ALT	翻訳	
不登校対応	随時	各家庭・青少年C	児童生徒・ 青少年教育センター	端末・ アプリ全般	オンライン化とセット
教育相談	随時	学校内・各家庭	児童生徒・ 保護者	Gmail・ フォーム	随時受け付けられる体制を作る （全員に相談フォームのリンク を知らせるなど）
校内放送の代替	随時	教室等・各家庭	児童生徒・ 教職員	Meet・ YouTube（Live・録画）	
部活動の連絡	随時・休日	適宜	生徒・顧問・ 保護者	Gmail・ Classroom・ カレンダー	
職員の連絡	随時	適宜	教職員	Gmail・ チャット	デジ職メールとの棲み分け、メール 配信システムとの棲み分け等を検討
職員打合せ・職員 会議・部会・校内 〇〇委員会	適宜・随時	職員室・教室・研修 室・会議室等	教職員	ドキュメント	ドキュメントを一斉に開き、共 有・共同編集
会議・打合せ （外部）	校長会・教頭会・教科部 会等・各種出張代替	適宜	教職員・ ゲストティーチャー等	Meet・ カレンダー	
行事等の反省 （教職員）	随時	学校・各家庭	教職員	フォーム	
研修会・講話・ 講演	校内研修等	研修室・会議室等	教職員・児童生徒	Meet・ YouTube・ Gmail	
学校評価 （児童生徒）	期末	教室等・各家庭	児童生徒	フォーム・ Classroom	
学校評価（保護者）	期末	各家庭	保護者	フォーム	
学校評価（教職員）	期末	学校・各家庭	教職員	フォーム	
各種調査	随時	各家庭	保護者	フォーム・ Classroom	
サテライト学習 （3密対策・分 散・不登校）	分散登校時・少人数 対応時等	教室等・学習室・各 家庭等	児童生徒・教職員	Meet・ YouTube（ライ ブ）	外付けマイクがあるとよい
オンライン集会・ 朝会・始業式等	随時・臨時休業時等	教室等・校長室・各 家庭	児童生徒・教職員	Meet・ カレンダー・ フォーム	
オンライン学活・ 健康観察 （感染防止）	臨時休業時等	教室等・各家庭	児童生徒・ 授業者・ 不登校児童生徒	Meet・ カレンダー・ フォーム	

なにを	いつ	どこで	だれが	どのように ※使用アプリ・ サービス・ コンテンツ等	方法・備考・その他
オンライン授業 (リアルタイム)	臨時休業時等	教室等・各家庭	児童生徒・ 授業者・ 不登校児童生徒	Meet・ カレンダー	複数台使用によるマルチア ングル(教室全体・板書箇所の クローズアップ・先生の手元・ 先生の表情など)
オンライン授業 (動画配信)	臨時休業時等	教室等・各家庭	児童生徒・ 授業者・ 不登校児童生徒	Classroom・ YouTube・ ドライブ・ NHK for School	
オンライン授業 (LMS、課題の 配布回収)	臨時休業時等	学校・各家庭	児童生徒・ 授業者・ 不登校児童生徒	Classroom・ YouTube・ ドライブ	
オンライン 授業参観	来校制限時等	教室等・各家庭	保護者等	YouTube (Live 配信)	
オンライン 保護者会	来校制限時等	教室等・各家庭	保護者等	Meet	
オンライン 保護者面談・ 進路相談	来校制限時等	教室等・各家庭	児童生徒	Meet	





沼津市学校教育におけるICT活用方針（N-GIGA）

令和3年2月10日 沼津市教育委員会